

衣のNGO

ふるぎのゆくえをいかにかげ?

# JFSA

またかたがくらしをささえる

せかいのきずとさとをかたぐる

NPO 法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会  
〒260-0001 千葉市中央区都町 3-14-10  
Tel・Fax : 043-234-1206  
E-mail : jfsa@f3.dion.ne.jp  
ホームページ : <http://www.jfsa.jp.org/>

会報 45号 2017年12月

## 特集 パキスタン派遣報告

停滞する古着マーケットの現況に対して、AKBG・JFSAは向こう3年の中期計画を立て、古着販売事業の新たな体制を作りたいと考えています。これまで約20年に及ぶ事業の中で培った経験や人脈をベースにして、AKBGが独自に拠点を設けて卸売りや小売りをしていけないかと検討しています。  
(古着の行方を辿って 6ページより)



毎週日曜に開催される「サンデーバザール」(カラチ市内)  
いつも多くの人で賑わっている。このエリアでは中古の靴や服が売られている。

## 目次

●特集● JFSA 定期総会報告 ..... 2 ~ 4p

招日報告「4000人の子どもの姿とともに」  
..... 5p

パキスタン派遣報告

「古着の行方を辿って」..... 6 ~ 9p

「カレッジに行きたいけれど」..... 10 ~ 11p

千葉センター便り「皆の生活の一部」..... 12p

東葛センター便り「チェーンブロック」..... 13p

心根(こころね)フリマ通信

「1周年 着物でつながる和衣(わい) マルシェちば」14p

コンテナ送り出し報告/チャエケサート..... 15p

JFSA からのお知らせ ..... 16p

### ●AKBG海外古着輸出

パキスタンの古着卸業者や日本の小売業者と日ごろからコミュニケーションを取ることに努め、需要を把握して輸入することにより、売り上げ増につながりました。パキスタン物産については、日本の小売業者と話し合ってパキスタン民族衣装の製作、販売を行ないましたが、現状小規模のため来季以降の課題となりました。

## 3. 国内事業

### ●センター業務

#### ①千葉センター

センター内の全体的な配置の見直しと在庫保管スペースの増設を実施し、効率化につながりました。アルバイトを増員しました。

#### ②東葛センター

回収量の減少により、東葛センターからの送り出しは2017年度中には困難であると判断したため、計画の立て直しが必要になりました。有志による木材の無料提供を受けて、保管用のスペースを作り、在庫管理がスムーズに行えるようになりました。

### ●ショップ販売

#### ①千葉ショップ

新しいエリアへのポスティング枚数を増やしたことで、新しい方の来店に繋がりましたが、売り上げ目標は達成できませんでした。また、売り場の模様替えを行ない、男性物売り場を拡大し、好評でした。

#### ②柏店（古着ショップkapre(カプレ)）

店内商品の入れ替えや陳列を来客に合うよう努めたことにより、売上では昨年度対比150%を達成しました。

### ●街商販売（フリーマーケット、その他）

千葉銀座通り、池袋西口公園、赤羽公園、津田沼公園、大井競馬場などのフリーマーケットを中心に出店しました。ペイタウン幕張は夏祭りでの「古着回収企画」へ、津田沼公園フリマはモリシア津田沼での「和衣マルシェちば」開催へそれぞれ繋がりました。

## 4. 広報活動

JFSAの会報を3回発行し、会員支援メンバーに送り、活動報告会やイベントなどでも配布しました。理事・ボランティアの方に意見を聞き、写真の使い方や内容など紙面に反映させました。

リーフレットを新たに作成し、活動説明会やフリーマーケット、イベント、ショップなどで配布しました。5月からの回収案内（16年度第3回）と一緒に、会員・支援メンバーに送りました。

### ●縫製工房

地球市民交流基金アーンと話し合いをすすめ、販売する製品を開発しました。

以下の製品をオーダーし輸入して販売しました。

- ・ガーゼストールとロールペーパーケース（生活クラブ生協虹の街\*40周年記念取り組み品）
- ・名刺入れ（生活クラブ生協虹の街\*40周年記念品）
- ・アジュラク生地のエプロンとアームカバーのセット（ファイバーリサイクル四街道20周年記念品）

このほか、縫製工房設立のときに直接に指導をいただいた縫製専門家の方から、地域のよさこいチームの衣装作成のオーダーを受けました。



ミーティング中の縫製工房



古着ショップ kapre (カプレ) 店内  
2階から1階へパキスタンで買い付けた  
色鮮やかなラグがかけられています

## 5. アル・カイルアカデミーの教育・連帯事業に関わるパキスタンの人々と交流

### ●招日

2016年11月16日から11月21日までアル・カイルアカデミー・ユースウィング代表のムハマド・サード・シークさん、2017年7月17日から24日までアル・カイルアカデミー校長ムザヒル氏を招日しました。イベント参加、協力団体の訪問、会員や理事、選別協力団体との交流を行ないました。

### ●パキスタン派遣

協力団体からは、(株)大地を守る会の事務局1人、グリーンコープ共同体から5人が事務局派遣に同行しました。

# 2016年度JFSA活動報告

2017年11月22日（水）に、JFSA第15回定期総会を行ないました。出席総数は84名（出席29名、委任状55名）で、提案された議案は全て承認されました。

長年JFSAの監事をつとめてこられました野田克己さんが退任されました。ありがとうございました。後任監事として熊谷浩二さん、新任理事として大山義満さん、小島慧さんが就任されます。よろしく願いいたします。

## 1. 古着・毛布などの回収

2016年度の回収は、計画を130トンとしました。センターでの回収受付期間は年に3回もうけました。回収実績は101.7トンで計画に届きませんでした。

特に2回目（表②）の回収量が少なかったため、3回目（表③）の回収では3年前に回収に参加した方たちにも案内を送付して呼びかけました。また、地域の夏祭り会場でも、主催者の協力を得て回収を行ない約1トン（144人参加）集まりました。

回収期間	回収量	送付人数
①2016年9月1日～12月31日	36,961.4kg	7,436人
②2017年1月1日～4月30日	26,008.4kg	5,828人
③2017年5月1日～8月31日	38,748.5kg	7,471人
合計	101,718.3kg	20,735人

## 2. AKBGとの事業連帯

### ●事務局の派遣

事務局派遣をアル・カイル事業グループ（以下AKBG）との連帯事業の推進、アル・カイルアカデミー教育事業の視察などの目的で実施しました。

### ●古着販売事業

JFSAからは4本のコンテナを輸出しました。グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部（GC）からは3本のコンテナが輸出されました。コンテナはすべて卸業者ワリー氏・ニアズ氏に販売されました。コンテナの到着に合わせて事務局を派遣しました。卸売価格交渉に立ち会い、販売利益が増えるように協力しました。また、8月の事務局派遣では、パキスタンでの古着ビジネスを理解し今後の事業展開について検討するために、カユーム氏とともに卸売業者や小売店を訪問し、マーケット調査を行ないました。



授業中のアル・カイルアカデミー

### 【資料】JFSA 第55回、第56回、第57回、第58回AKBG古着販売事業収支

	第55回 (2017.03 到着)	第56回 (2017.05 到着)	第57回 (2017.08 到着)	第58回 (2017.10 到着)	合計 収入合計以下は57回 まで
送出し量	24 トン 9kg	24 トン 118kg	24 トン 383kg	24 トン 508kg	97 トン 18kg
収入	276 万 1035 ルピー	246 万 36 ルピー	234 万 768 ルピー		756 万 1839 ルピー
卸売価格	115 ルピー/kg	102 ルピー/kg	96 ルピー/kg		
レート	1 ルピー : 1.09 円	1 ルピー : 0.94 円	1 ルピー : 0.95 円		
経費合計	125 万 2073 ルピー	125 万 6594 ルピー	121 万 7238 ルピー		372 万 5905 ルピー
日本サイド	80 万 7952 ルピー	86 万 5566 ルピー	86 万 5386 ルピー		253 万 8904 ルピー
パキスタンサイド	44 万 4121 ルピー	39 万 1028 ルピー	35 万 1852 ルピー		118 万 7001 ルピー
純利益	150 万 8962 ルピー	120 万 3442 ルピー	112 万 3530 ルピー		383 万 5934 ルピー
純利益（円建て）	164 万 4769 円	113 万 1235 円	106 万 7354 円		384 万 3358 円

前年度純利益 541 万 6243 ルピー



卸業者の倉庫に着いたコンテナ荷下ろしを行なっている



倉庫に降ろされたJFSAの古着  
緑色のバンドのものは全てJFSAが送ったもの

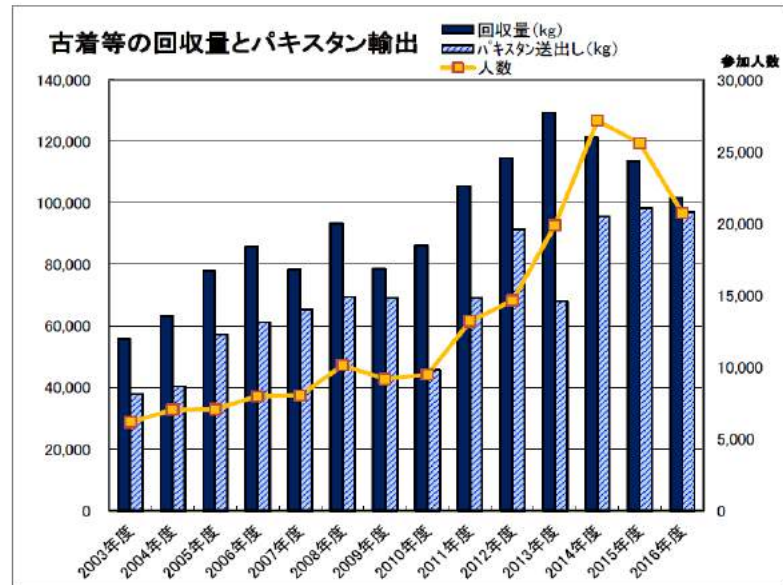
## ● J F S A 2016年度 会員数の増減

	会員数 (うち新規入会数)	前年比	口数	前年比	計画口数
会員 (個人)	150名 (14名)	-4	159口	-15	180口
支援メンバー (個人)	1,179名 (146名)	-43	1,335口	-54	1,450口
会員 (団体)	11団体 (1)	+1	11口	+1	11口
支援メンバー (団体)	7団体 (0)	±0	11口	+4	10口

継続率は85.0% (2015年度84.7%) で昨年度に比べ微増しましたが、新規入会者が減り計画が達成できませんでした。活動報告会、企画出店などでの呼びかけが不十分でした。

## ● J F S A 古着回収量の推移

	回収量:ト	輸出量:ト
2002年度まで	138.7	186.4
2003年度	55.8	37.9
2004年度	63.3	39.5
2005年度	77.9	57.2
2006年度	85.7	61.2
2007年度	78.3	66.2
2008年度	93.4	69.5
2009年度	78.6	69.0
2010年度	86.3	45.7
2011年度	106.6	69.2
2012年度	114.7	91.6
2013年度	129.4	68.5
2014年度	121.3	95.6
2015年度	113.6	98.3
2016年度	101.7	97.0
合計	1445.3	1152.8



## 監査報告書

私たち監事は、2016年度 (2016年10月1日から2017年9月30日) の当会の事業と活動および決算と会計諸表について、11月1日に監査を実施いたしました。その結果、当会の事業と活動は総会の決定にもとづいて滞りなく遂行され、決算と会計諸表は法令および定款に従い適正に処理されていることを確認いたしました。

2016年度は、古着の回収実績は年度計画の130トンに届きませんでした。特に2回目の回収 (2017年1月1日～4月) の回収量が少なく、前後の回収と比べても10トン以上少ない回収量になっています。時期的に回収量が減少する時期ではありますが、送付人数が増えるような対策が必要です。またホームページを見ての参加者、回収量共に前年の70%に減ってしまいました。ホームページのリニューアルが急務です。

4回の輸出は計画どおり達成できましたが、本会活動の基本にかかる事業で3年続けて回収計画が未達成であったことは、今後課題を残したと言えます。回収計画の策定と実現のための道筋を振り返り、その総括を今年度生かしていただきたいと思います。

販売事業では、男性物売り場の増設、客層に合う商品仕入れ陳列をおこなうことで売り上げが伸びました。フリーマーケットは前年比90%の売り上げにとどまりました。出店回数増加、新規イベントの開発等が必要です。

事業全体で3期連続黒字を達成することができたことは、大いに評価されるべきだと思います。

一方で、個人の会員、支援メンバーともに減少しています。会員・支援メンバーは当会の基本的な活動基盤であり、会員の増減は活動支援の輪の広がりのパロメーターでもあります。会員増をめざすには広報活動の強化が必須です。WEBでの日常活動の報告 (毎日の動きがわかること) や会員募集等を積極的に行うことが必要です。現在おこなっている紙媒体での広報に加え、積極的なWEB広報を複合的に利用し、J F S Aの活動理念と実践とを積極的に会員や社会に知らせてくれるよう期待いたします。

J F S Aの活動の「価値」がさらに共感を得て広がることができるよう、役員、職員、会員の皆さまや団体会員・支援メンバーの皆さま一丸となって、活動計画の達成に邁進いたしましょう。

2017年11月1日  
監事 野田克己 水谷靖之

# 招日報告



## 4000人の子どもたちの姿とともに

海外事業担当事務局 依知川 守

今回はアル・カイルアカデミーのムザヒル校長と、AKBG事務局カユーム氏を招日しました。前回の今年7月の招日時は日本がとても暑い時期で、今回は一気に肌寒い時期(カラチはまだ40℃前後ありました)、しかも台風も来ましたが、多少のスケジュール変更のみで無事過ごすことができました。

### ・平等な教育の機会

滞在期間の10月19日(木)～10月27日(金)、千葉、埼玉、茨城の各協力団体の皆さんとの交流会への参加などを通して、古着回収に参加されている皆さんと直接会い、パキスタンの子ども達の様子をお話しする機会を持ちました。参加された何人かの方からは「以前、テレビでイスラム過激派が女子教育を否定しているように報じられていたのですが、実際、イスラムではどのような教えなのでしょうか?」という質問をいただきました。ムザヒル校長は「本来、イスラムでは男女は平等であるという

教えです。当然女子にも平等の教育の機会が認められています。」と答えていました。

### ・4000人の子どもたちの姿

ムザヒル校長はこの招日期間より一足早く10月15日(日)に来日し、19日(木)までの期間はJFSAとAKBGが参加している「互恵のためのアジア民衆基金」定期総会や、JFSAの協力団体、グリーンコープ組合員の方々への報告会・交流会へ参加するため福岡・広島を訪問し、私も通訳として同行しました。

社会福祉法人グリーンコープは生活困窮者の方々への雇用創出に繋げるために、職業訓練として古着選別やプレス梱包作業を行なうファイバリーサイクルセンターを5年前に立ち上げ、このセンターから年間3回、古着コンテナをAKBGへ輸出しています。今回は古着選別やプレス作業を日々担っている当事者の方々と、車座になりチャイを片手に交流の時間を持ちました。そこでムザヒル校長は

質問しました。「この社会には道路や立派な建物が沢山あります。このような物が作られるために一番大切なものが何かわかりますか?」そしてこう続けました。

「どのような物も、それを作る人がいて初めて存在します。この古着リユース事業を通して子ども達を支援する活動を支えているのはあなた方一人一人の存在です。私には、あなた達の後ろにアル・カイルアカデミーの4000人の子ども達の姿が見えます。」

ムザヒル校長のこの言葉に、同席した皆さんのそれぞれの気持ちに、作業の目的があらためてスツと届いたように感じました。そしてこの言葉は同時にJFSAへ古着を寄せてくださる皆さんの存在、そして私たちの活動の目的そのものと重なるものとして、私の気持ちにも届きました。



アル・カイルアカデミー キャンパスで学ぶ子どもたち

10月31日(月)～11月9日(木)

### ・卸価格交渉への協力と到着確認

到着確認

JFSA第58回コンテナ

24トン508KG

グリーンコープ第15回コンテナ

25トン553KG

ハンサリム連合第1回コンテナ

25トン89KG

日本からはJFSA(9月27日積み込み、横浜港出港)とグリーンコープ(9月28日積み込み、博多港出港)のコンテナ、韓国からはハンサリム連合(韓国の生協)のコンテナ(9月19日積み込み、釜山港出港)が送り出され、3本とも無事にカラチ港に到着しました。

### ・AKBGと卸業者ワリー氏、ニアーズ氏との価格交渉

ニアーズ氏との価格交渉

今回もテーマとなったのが古着マーケットの低迷です。パキスタンには中国から陸路と海路の両方で古着と安価な新品衣類が大量に輸入されていて、価格の下落を招

いているようです。日本の大手故繊維業者さんの話でも、東南アジアのマーケットでも中国古着が同様の影響を与えていると聞きました。ニアーズ氏の話では、中国の古着はクオリティは良くないが、日本やヨーロッパから来る古着の半額程度だと言います。AKBGも卸売相場価格の見直しが必要と判断しています。中国からの古着の流入は2年程前から始まり、それ以前と比べ、卸売価格は10ルピー近く下回っています。私の滞在中にはハンサリム連合のコンテナの卸売価格は妥結しましたが、JFSA、グリーンコープは持越しとなり妥結しませんでした。

### ・新たな事業展開に向けて準備を始める時

準備を始める時

停滞する古着マーケットの現状に対して、AKBG・JFSAは向こう3年の中期計画を立て、古着販売事業の新たな体制を作っていくきたいと考えています。これまでに約20年に及ぶ事業の中で培った

経験や人脈をベースにして、AKBGが独自に拠点を設けて卸売りや小売りをしていけないかと検討しています。まずこの1年はそのための調査をAKBGとともにすすめる予定です。

### ・荷下ろし

JFSA、グリーンコープ、ハンサリムの全てのコンテナは通関を問題なく通過し、シエールシャヤ(倉庫街)のニアーズ氏の倉庫に荷物が下ろされました。パキスタンは11月2月が冬物の取り引き時期にあたります。8月に来たときには、倉庫内に冬物のセーターやジャケット類のベールのストックが大量にありました

が、今回それらはいぶ減っていました。買い付け業者が来て、コンテナから下ろしたばかりの毛布のベールを軽トラに山積みに乗せて買っていきました。日本では毛布はアクリルよりウールの方が高価ですが、パキスタンではアクリルの方が柄が華やかで好まれるた

めに高くなっています。

私はマズドゥーリー(荷役労働者)達といっしょにやる荷下ろしが毎回とても楽しみです。ひとつには、日本でたくさんの人たちの協力で作られたコンテナの到着の瞬間を迎えられるからです。もうひとつは、マズドゥーリーたちが50KGのベールを軽々と運ぶ姿はとにかくカッコイイのですが、そこに私も混ざっていっしょにやれるのがすごく嬉しいからです。

8月に荷下ろしをした際にマズドゥーリーになり立ての青年と会いました。その時は荷物を持つとふらふらしていて少し頼りなかったのですが、今回、会うと見違えるほど精悍な顔立ちになっていました。マズドゥーリーの仕事は重い物を持つものすごく大変な肉体労働だと思いますが、400KGのベールを仲間と人力で動かすような共同作業の中で、身体で学びとり成長しているんだろうなどと、彼と再会して感じました。

# パキスタン

## ・ハンサリム連合(※)のコンテナ

ハンサリム連合はAPF（互恵のためのアジア民衆基金）を通してAKBG・JFSAの活動を知りました。韓国での古着回収・輸出事業を始めるにあたり、約3年前から準備を始め、パキスタンへの訪問やJFSAでの研修、AKBGカユーム氏、JFSA事務局の訪韓等、準備をすすめてきました。今回、第1回コンテナの到着に合わせて、職員の方3名と通訳の方1名が同行しました。

ハンサリム連合のコンテナでまずニアズ氏から指摘されたことは「初めてのコンテナなので、クオリティがわからない」という点でした。古着は新品の商品と違って、一点一点全て違います。古着のペールは圧縮・梱包されていて中身を見ることはできません。これまでの経験をもとに「どの国のどの業者から来たものか」で良し悪しを判断しています。買い付ける業者からすると、仮にクオリティが悪ければ、損失を被ることになります。ハンサリムの職員からは「組合員は趣旨を理解して古着を出しています。対面で受取をしたのでクオリティは良いです」

と説明がありました。

JFSAの古着は良い評判を得ていると聞いています。古着を出す人が継続して良い品物を送ってくれることで、「JFSAブランド」の信頼が得られているのだと思います。韓国の毛布はサイズが大きく柄も良いので、日本のものより高く売れると聞いています。ぜひ、今後継続することでハンサリムブランドを築いてほしいと思います。

ハンサリムの同行者の皆さんに最後に感想を聞くと「厳しい生活を送る子どもたちにとつて、学校はオアシスのようだと思った。そういう場所を作っているのがアル・カイルの活動」「少年時代に近所のゴミ捨て場に住む人たちがいたが、その人たちを遠くから見ているだけだったことを思い出した。親の世代の生活の厳しさを考えることにもなった」という話があり、印象に残りました。

(※)ハンサリム連合 生産者と消費者が協力して作った韓国の生活協同組合。2010年のパキスタン大洪水の際には、AKBGが取り組んだ被災した農村の人々への支援にカンパを行ないました。



AKBG事務局のカユーム氏（中央）と一緒に  
コンテナの荷降ろしを行なう  
ハンサリム連合のジョンさん（左）とカンさん（右）



すぐにも買われていったJFSAの毛布のペール  
軽トラックに20個（1トン）も積まれた

# 派遣報告

## ・初めての古着仕入れ

JFSAの店舗には、古着を店舗やインターネットで販売している業者さんも買い付けに来ていただいています。その中の一人、業者のAさんは、私が12年程前にJFSAに入った頃から、都内のフリーマーケットに出店すると毎回のように購入していただいていた方です。1年前からは千葉センターに月に1回程来て、たくさん購入してくださっています。国内や世界の古着事情の話なども聞かせてもらえ、とても貴重な時間になっています。

私はAさんには「パートナー」という感覚があります。それは大口のお客さまだからというだけでなく、Aさんの仕事についても「この前買ってもらった品物ちゃんと売れているかな」と考えるようになったからだと思っています。そんな時にAさんから「バーバリーのコートはパキスタンで仕入れられますか？」というリクエストがありました。古着仕入れは事務局田邊航太郎が担当しており、私は知識も経験も浅いのですが、「要望に応えたい、ぜひやってみ

たい！」という思いから、初めての仕入れに挑みました。

仕入れは卸業者のワリー氏の倉庫で行ないました。日本で人気がある品物が4メートルぐらいある天井まで山積みになっているのはとても驚かされました。ワリー氏の弟さんやマズドウリー、仲間の業者がいて、大きな声でパシウトウ語（ワリー氏たちパシウトウ民族の言葉）が飛び交っていました。子どもの頃にわくわくしながら見たテレビ番組、シルクロード探訪を思い出します。今回約500点の古着を買い付けることができました。（バーバリーは約150点）この古着はAさんに販売するだけでなく、千葉店に輸入古着コーナーを新たに設け、12月から販売しています。

今回、良い経験となったのは、「直接に自分でやれた」ことだったかと思っています。ワリー氏の倉庫の膨大なお宝？古着のストックは、日本での輸入古着販売事業の可能性を膨らませました。また、具体的な仕入れという「仕事」ができたことで、緊張感も含めたワリー氏たちとのやりとりや関係が

生まれました。ワリー氏は初めての経験になる自分を氣遣っているというアドバイスもしてくれました。それは自分の商売のためでもあるでしょうが、私が良い物を選びJFSAの利益につながることも考えてくれていると思います。私は、業者のAさんとのやり取りや、パキスタンでの古着の仕入れを通して、相手の事を想う商売の関係、すなわち人と人との関係も学ぶことができたように思いました。



上：古着の山に囲まれてJFSAで販売する古着を選別するAKBG事務局のカウム氏



右：古着の卸業者とやり取りをする事務局の入江（中央）



## パキスタン

・ムニールさん

アル・カイールアカデミーはカラチ市内で不要品（衣類、雑貨、家具等）の回収を呼びかけ、回収品を校内にある店舗や業者に販売して学校の運営費としています。回収した衣類の中には店舗では販売できない状態のものもあります。それらを買って付けているムニールさんという男性がいると聞き、話を聞かせてもらいました。

ムニールさんは家々を回って、自分で仕入れた小さな台所用品などの雑貨と家庭で不要になった物（衣類や食器類）とを交換して引き取っています。引き取った衣類はそのまま販売します。路上で荷車を使って引き売りをしている人たちに販売しているそうです。ムニールさんの家族は8人の子どもがいるにもかかわらず、月収は8000ルピーしかありません。そしてムニールさんには身分証明カードがありません。親が持っているのと子ども身分証明カードを持つことができないため、公立学校に通うことができない等、さまざまな不利益を被ることになります。ムニールさん自身も学校に行っていないです。

古着リサイクルの流れの中には、古着を出す人や回収業者、卸業者、小売業者等々さまざまな人たちが携わっています。ムニールさんや引き売りをする人たちは、その末端で仕事をし、厳しい生活を送る人たちです。その実情を聞いて、古着という共通素材を通して、仕事をいっしょにやってみることができないだろうか、AKBG・JFSAの新しい販売の展開の中でそのことも考えられないうだろうかと感じました。



左から：環境街づくりNPOエコメッセ理事長の大嶽さん（詳細は11p参照）  
JFSA事務局の入江、ムニールさん、JFSA事務局の田邊



アル・カイールアカデミー本校の屋上からみた  
ムスタファエリア（スラム街）  
ここから多くの子どもたちが通っている

縫製工場のスタッフリーダーの娘マーハムさんは、アル・カイルアカデミーに通っています。今年、マトリックの試験をパスできれば、来年はカレッジに進学できます。ムザヒル校長も、マーハムさんはとても利発で熱心に学んでいると話していました。

### ・サルマさんの心配

縫製工房に顔を出したマーハムさんに、「カレッジに行きますか？」と声をかけました。彼女はとなりにいる母親のサルマさんの顔を見ました。居合わせた副校長のタスニームさんは「行けますよ。」と微笑みました。でもサルマさんは渋い顔をしています。そこで、私はサルマさんに、「マーハムは進学できますか？」とききました。返事がなく、表情もすぐれません。「何か心配があるので、と重ねてきくと、「通学の行き帰りが心配です・・・」という答えがかえってきました。タスニームさんは「近所の子もカレッジに行く子がいるから、いっ

しょに通学できるのでだいじょうぶ、進学させなさい。」とサルマさんに向かって言いました。マーハムさんも「アミー（お母ちゃん）！」とお願ひする表情をみせてサルマさんに呼びかけました。



### ・キャンパス6を開いた理由

以前、アル・カイルアカデミーが分校のキャンパス6を開いたときの理由をムザヒル校長から聞いたことがあります。その地域からアル・カイルアカデミーに通ってきている生徒がいるが、通学の道が危険なのでそこに学校を開こうと思ったと言っていました。キャンパス6は、本校のキャンパス1から歩いて30分ほどの距離



進路について話し合う上から、マーハムさん、タスニーム副校長、サルマさん（縫製工房）

離にあります。生徒はスラムの中を歩いて通ってきていますが、一人で通学すると暴行を受ける危険があることを心配していました。

パキスタンでは、女性が一人で街を歩くことはほとんどありません。外出するときは、家族や親戚の男性といっしょか、または複数で連れ立っています。バスの座席も女性と男性は別で、運転席に近い前のほうに仕切りがあつて女性専用の場所が作られています。サルマさんは夫を病気で亡くし、そうした社会の中でマーハムさんと弟を育てています。ふだんは威勢がよく姉御肌のサルマさんは、工場の仕事のことではAKBG事務局のカユームさんにも決して譲ら

ず強い様子を見せていますが、娘のマーハムさんを心配する気持ちは、父親の分まで一人で背負っているためにより強いのでしょうか。カユームさんもそれをよくわかっていて、「サルマさんはお父さんの分までがんばっているからたいへんなのです」と後で話してくれました。



協働事業担当事務局 田邊 紀子

11月1日(水)～11月6日(月)

・「カレッジに行けます。」

心配するサルマさんとだいいじょうぶというタスニームさん、どちらも譲らずマーハムさんも困り顔、話を切り出した私は「わかりました。この縫製工房をカレッジに移しましょう！そうしたらマーハムはお母さんといっしょに通えますよ。」と提案すると、3人とも「何を言っているの？」という表情で私のほうを見ました。私は半ば本気でしたし、マーハムさんがカレッジに行ける状況を作りたいという思いは皆いっしょです。

子どもたちが学ぶことができない理由は経済的なこともありませんが、社会的な背景もあります。まわりにいる人の支えは気持ちを強くする力になるし、必要なことです。後でタスニームさんは、「だいいじょうぶです。マーハムはカレッジに行けます。」と言っていました。きっと、これまでも同じような会話を生徒の親たちと幾度となく繰り返してきたのでしょう。その笑顔に少し安心しました。



露店で古着を見る女性たち（カラチ市内）

## 「ザクロ!!!」

今回の派遣の同行者は、パキスタンを初めて訪問する大嶽貴恵さん、環境街づくりNPOエコメッセの理事長をされています。エコメッセは、生活クラブ生協・東京の組合員が中心になって都内で15店舗のリサイクルショップを運営、自然との共生を優先した街づくりに取り組んでいます。リサイクルされる古着のゆくえを知りたいということで、今回の訪問になりました。

大嶽さんは「私、パキスタンの言葉はわからないのにわかる気がする」とおっしゃるくらい、出会った人たちとすぐに打ち解けてしまうキャラクターの持ち主で、私も通訳することを忘れてしまいそうな場面が何度かありました。

ある晩、食事の後にザクロを出していただきました。大嶽さんは大好物だと言っても喜んでいません。ちょうどザクロは旬で、バザールでもたくさん売られています。その翌日、夕方ムザヒル宅に戻ると、はずしたザクロの実をいっぱいに入れた鍋を持ってムザヒルさんが出迎えてくれました。「これは大嶽さんのものです。ジュースを作ります。」とニコニコするムザヒルさん、「ワア!!!」と感激する大嶽さん、彼女とムザヒルさんの間に、ザクロを通じた強いつながりが生まれた瞬間でした。



バザールで売られているザクロ

# 千葉センターだより

## ● 皆の生活の一部

千葉ショップ担当事務局 大橋 紀子

私がJFSAで働き始めたのは2004年です。そんなに経ったのかと自分でも驚きます。私が入った時は、今の倉庫の半分のスペースで、ショップ、仕分け・梱包作業、在庫保管を全て行なっていました。その後、倉庫全体と隣の建物を借りるようになり、さらに、隣の建物を建て直し、ショップとしてリニューアルオープンしたのが2012年です。つい先日、倉庫スペースの売り場を拡大し、輸入古着売り場を作りました。

千葉センターの周りの環境も、大小ありますが変化しています。近くに大きなスーパーやショッピングモールができた、千葉駅前の様子が大きく変わったり。それによって人の流れも少しずつ変わってきているはずですが、ありがたいことにJFSAには変わらず来てくださる方が多いので、劇的な変化というものとはそれほど感じていません。

私がJFSAに入った動機は、パキスタンの支援活動をしているという点はもちろんですが、寄付金や助成金には頼らず自分たちで事業をしていて、生活できるだけの給料が出る、というところにとっても惹かれたからです。入ってから思ったのは、給料は出るものではなく、自分たちで作るものだという事でした。このスタイルはずっと変わっていません。これからもきっと変わらない部分だと思います。13年前私が入った時は、やっとお店担当のアルバイトが1人入ったという段階でしたが、今では千葉センター、東葛センター合わせると、12人ものアルバイトスタッフがいます。

JFSAで働き始めてからずっと、身にしみて感じていることは、自分たちで稼ぐということはとても大変だということです。皆さんから送られてきた古着を仕分けして、日本国内、パキスタンそれぞれで売れる状態にすることは、とても手間がかかります。その手間を惜しまず、お客さんからの要望や、流行、、、様々なことを日々考えながら、事務局6人とアルバイト12人で動いた分が稼ぎに繋がる、とてもシンプルな形です。私にとってはそれがやりがいです。

アルバイトスタッフは、短い人でも1年くらい、長い人だと10年近く働いているメンバーもいます。きっと、それぞれが仕事の中に、何かしら自分なりのやりがいを持っているのではないかな、そのことが長く働き続けている動機かなと思います。

皆で皆の暮らしを支えているというと大げさかもしれませんが、お金としても時間としても、JFSAという場が皆の生活の一部であることは確かです。うまくは言えませんが、その輪がスタッフ間だけでなく、お客さんだったり、地域に暮らす人だったり...そしてさらに、パキスタンの人たちの暮らしとも繋がっていくといいなと、漠然としたことを考えています。それを、具体的な形にするにはどうしたらいいのだろうか...と考えながら日々身体を動かしていこうと思います。

JFSA 千葉ショップ OPEN★10:30～19:00（木曜定休）

- ☆住所 千葉市中央区都町3-14-10
- ☆電話・ファックス 043-234-1206
- ☆アクセス
- ★JR千葉駅東口より1番乗り場のバスに乗り『都町球場入口』下車。徒歩1分。100円ショップダイソー裏。
- ★駐車場もあります。お車でどうぞ。



# 東葛センターだより

## チェーンブロック

古着ショップ kapre (カプレ) 担当事務局 田辺 航太郎

東葛センターを開設して7年が過ぎました。その7年が過ぎる少し前に、「電気チェーンブロック」を設置しました。それが何かすぐわかる方はそんなにいないと思いますが、鎖の先にフックが付いていて、そこに荷物を引っかけて電動で上げ下げできる機械です。設置したものは、250kgまで持ち上げられます。

東葛センターでの仕事で、古着の移動は日常的に行なわれています。仕分け作業は1階で、在庫管理は2階で行なわれるため、仕分けしたものを2階に上げて、販売するものを2階から降ろします。重さの制限など設けていますがなかなかの重労働のためできる人が限られていましたが、機械の設置によりできる人の範囲がかなり広がりました。

この多くの人が作業できるような環境を作るための相談から機械の設置までを、便利屋『ユーズ』に頼みました。知っている方もいると思いますが、ユーズが以前やっていたリサイクルショップに訪れていたパキスタンの人たちとの縁からJFSAの活動は始まりました。東葛センターから車で5分ほどの柏市松葉町に以前その店舗はあり、余談ですがかつてユーズの店に通っていたお客さんが、JFSAとのつながりを知らずに東葛センター併設の店舗「kapre(カプレ)」の常連さんになってくれたことを知ったときは、お互いびっくりしました。ユーズは現在便利屋として様々な仕事を行なっているのと、流山市の江戸川台駅近くで「プチそら」という婦人服などを扱うリサイクルショップをやっており、今でも

今回の機械の設置のようなことがあるとお願いするなどつながりを持っています。

JFSAもアル・カイルアカデミーも、その付き合いから始まったころに比べて大きくなりました。こういうことをやりたい、やろうと始めるために多くの人の協力を得て最初の形が出来上がり、今はその形を見て、そういうことならとまた多くの人が力を寄せてくれていると思います。時間がたって環境が変わる中で、かかわれる人や条件も変わってきますが、できることなら多くの人がかかわれるような環境を作っていきたいと思います。

そんな中で取り付けたチェーンブロック、つながり(チェーン)のかたまり(ブロック)みたいでなんととも力強い感じがします。これからもいろんな人たちとのつながりを固めながらやっていけたらと思いました。

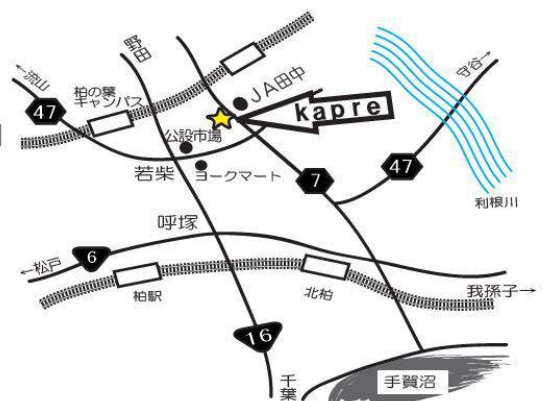


チェーンブロックで荷物を上げている

JFSA 古着ショップ kapre (カプレ) OPEN★10:30～19:00 (木曜定休)

- ☆住所 柏市大室 176-1
- ☆電話・ファックス 04-7110-0984
- ☆ホームページ  
<http://jfsa.sakura.ne.jp/mysite1/newpage1.html>
- ☆オンラインストア  
<http://kapreonline.theshop.jp/>

- ☆アクセス
  - ★つくばE×線「柏たなか」駅 徒歩 10分。
  - ★柏駅西口バス乗り場 5番乗り場 03系統「柏市立高校」行「大室」バス停から徒歩 1分。
  - ★駐車場もあります。お車でどうぞ



## 1周年、着物でつながる「和衣（わい）マルシェちば」

海外事業担当事務局 依知川 守

JFSAは皆さんから着物や帯、和装小物なども受け付けています※。

寄せられた着物類は、着物に詳しいボランティアやアルバイトスタッフが毎月1～2回、仕分け・値段つけなど販売の準備をしています。着物を買われるお客さんは大きく分けて「そのまま着る方」と「リメイク素材にする方」に分かれますので、仕分け・値段つけは、それぞれのニーズを考えて行なわれます。

着物販売企画としては、JFSAは2001年からワーカーズコレクティブ（※）の皆さんとともに「リサイクル着物市」を千葉・東葛地域で開催したり、協力団体のファイバースリサイクルうらやす主催の着物市に参加をしてきました。また独自の販売としては古着ショップのセールやフリーマーケットが主な販売の機会でした。ゴールデンウィークの代々木公園のイベントでは、若者や外国人の方が多く、今年はヨーロッパから留学中の女性が、きれいな日本語で「着付けはユーチューブで覚えました。でも今は近所のおばあさんに、直接教わっています。」と嬉しそうに話してくれて、時代の変化も感じました。一方で外国の方の自由な発想で、ガウンのように着物を纏う姿も新鮮な光景です。

着物販売の場は「この着物にはどの帯が合うかしら?」「着物をリメイクしてコートを作っているんだけど、裏地はどんな生地が良いかしら?」など相談があちこちから聞こえ、和気藹々です。

・・・せっかく毎月着物の選別作業をしているのだから、定期的に着物市を開催して着物販売を通じた交流の場を作りたい・・・そんな思いから「和衣マルシェちば」は生まれました。今は毎月第1土曜日、千葉市中央区のフリースペース「まる空間」を借りて開催しています（7月7日にはモリシア津田沼の催事スペースを借りて拡大版和衣マルシェちばを開催しました）。そしておかげさまでこの12月で1周年を迎えることができました！

毎回少しずつ、新しいお客さんも増えてきていますが、この着物で繋がる輪をこれからも楽しく広げていきたいと思っています。和衣マルシェちばをこれからもよろしく願います！



お店の外には反物や帯・小物も  
のぼりをたててお待ちしています。

※ワーカーズコレクティブとは  
出資・運営（経営）・労働を三位一体として活動を進め、地域の課題に気がついた時、働く場としてそれを解決します。  
仲間を集めて出資を募り、労働の内容は自前で決定します。  
運営は一人一票を原則とし、出資の多い少ないに依ることなく、民主的な運営を行ないます。

ワーカーズコレクティブ千葉県連合会ホームページより

### 和衣マルシェちばの最新情報

Facebookページ <https://www.facebook.com/waimarchechiba/>

#### ※着物類の受付

着物（絹・麻・木綿のみ・化繊・ウール受付不可）・ゆかた・反物（ハギレは不可）

帯（絹のみ受付可）和装バッグ・和装小物、帯揚げ・帯締めなど

在庫量によっては受け付けをしない期間もあります。

“和衣マルシェちば”で  
検索!

# コンテナ積みこみ送り出し報告

第58回 9月28日(水) ボランティア45名 送り出し量24トン508kg



マフラーやエプロンを詰め(奥)、計量をしている(手前)  
袋の中はマフラーで5kg



びっしり詰まったコンテナ  
上部と左側に最後袋詰めしたマフラーやエプロン、  
帽子、スカーフが積みあがった

9月28日「コンテナ積みこみ送り出し」を行ないました。今回も選別協力団体の方、会員支援メンバーの方、総勢45名の方の力を借りて、無事に終えることができました。

事務局の入江が「今回は荷物(ヘル)が途中で足りなくなるかもしれない・・・」と言っていました。古着の回収量が少なかつたためです。前日までに選別作業と圧縮梱包作業は続けられ、当日を迎えました。

作業終了、ヘルはすべて積みこまれましたが、あと少し、およそヘル2個分のスペースがありました。誰となく「マフラーとかエプロンを袋に入れて詰めよう!」と梱包作業が始まりました。そこでも「帽子とスカーフだと(1kgあたりの単価)とこちらが高

いの?」「エプロンとスカーフは?」と確認しながら行ないました。5〜10kgほどの古着が入った袋を作り、コンテナの隙間に詰めこんで満載にすることができました。

コンテナの輸出経費は重くても軽くても、空気があってもなくても変わりません。アル・カイルアカデミーの利益を少しでも多く作り出したい!満載で、パキスタンに送り出したい!そんな思いが詰まったコンテナになりました。

改めてJFSAとAKBGの連帯事業は「皆さんからの古着が届いて始めることができる」ことだと感じました。

次回の送りだしは1月31日(水)を予定しています。また、古着や毛布などの回収は1月19日からです。どうぞご協力よろしくお願いします。

## 弁当!

ガハル ワラー!



●チャエケサートの意味は・・・  
パキスタンの公用語、ウルドゥー語で「チャエ」は「温かいミルクティー(チャイ)」、「ケサート」は「一緒に」で「チャイと一緒に」という意味になります。パキスタンではチャイを飲みながら、賑やかにしゃべりを楽しみます。

古着卸売業者ワリーさんの弟で、一緒に働いているクドゥラツトラーさんが「ガハル ワラー!」と大きな声を出しました。それはいつものように作業中の倉庫で昼食を食べているとき、隣の倉庫で同じように昼食をとっていた人から差し入れをもらった時でした。ガハル家、ワラー物で、この場合は家で作ってきた物、つまり弁当ということになります。それは「ロキ」という日本と言うところの「ひょうたん」のカレーで、甘くて優しい味がしました。

パキスタンの最大都市カラチでは、同郷出身者を頼りに家族のもとを離れて出稼ぎに来ている人や、家族ごと郷里を離れて働いている人たちがたくさんいます。地域や民族によって食文化も違います。お隣とこちらは同郷で、ワジリスタンというアフガニスタン国境に面した地域の人たちが働いています。差し入れはいつもの職場の味ではなく、ちょっと故郷を思う、そんな味だったんじゃないかと思いました。

こちらで食べていた物は出前で頼んだカレーです。倉庫街にある食堂に頼むと持ってきてくれます。だいたい毎日そこに注文するのですが、その都度支払うのではなくいわゆるつけ払いで、1万円を越えたところに請求に来るそうです。「社長の?」という感じで来ますが、タイミングが合わずに2〜3日空振りが続くのだんだん不機嫌になっていきます。いつもサービステックはすのサラダが入っていないのはそのせいかな?なんてこともあります。



倉庫街にある食堂で頼んだ出前の豆カレー



## JFSAの会員・支援メンバーを募集しています

JFSAは正会員及び賛助会員（支援メンバー）で構成されています。

（正会員：112名 賛助会員：906名 2017年11月現在）

正会員によって活動の様々な事柄が決定され、賛助会員の協力によって活動が支えられています。

そして皆さんの参加が、パキスタンの人々との連帯事業を推し進める力になります。

会員・支援メンバーの方には、会報・回収案内（年3回）  
サポーターグッズ（年1回）をお送りします。

●年会費（10月～翌年9月）

個人：会員 5,000円 / 支援メンバー 2,000円

団体：会員 50,000円 / 支援メンバー 10,000円

●会費振込み口座（郵便振替）

番号：00160-7-444198

口座名：JFSA

\*活動への寄付にも同じ口座がご利用できます。  
通信欄に「寄付」とお書き添え下さい



2016年度のサポーターグッズのサンプルを作っている  
縫製工房スタッフリーダーのサルマさん

## JFSAでのボランティアのご案内

### ★第59回コンテナ送り出し★

日時：1月31日（水）予定  
8時半～15時頃

場所：JFSA千葉センター&大田切公園  
（千葉市中央区都町3-14-10）

※お昼はみんなで  
パキスタンカレーです※



### ★その他のボランティア

ボランティアご希望の方はお気軽にお問合せください

- コンテナ送り出し作業（年4回）
- イベント・フリーマーケットなどでの協力（週末）
- 切手やハガキの整理
- 会報など発送作業（年3・4回）
- 古着の選別体験（グループ対応）
- 和服整理ボランティア  
（毎月第1水曜日10時半～）

### ★ボランティアに関する問合せ先

●JFSA事務局（木曜定休 9時～19時半）

電話・FAX：043-234-1206 メール：jfsa@f3.dion.ne.jp

ホームページ：www.jfsa.jp.org

\*ボランティアは無償です。交通費や食費はご自分で負担していただいています。

NPO法人 日本ファミリーサイクル連帯協議会（JFSA）（9時～19時半／木曜定休）

千葉センター 千葉市中央区都町3-14-10 東葛センター 柏市大室176-1

Tel：043-234-1206

Tel：04-7110-0984

★会報についての感想やご意見もお気軽にお寄せください。

電話・fax：043-234-1206 メール：jfsa@f3.dion.ne.jp ホームページ：http://jfsa.jp.org



JFSAのホームページ  
QRコード